

# 人間ドックの上部消化管内視鏡検査をお受けになる方へ

## 説明と同意書

### (検査目的)

上部消化管とは食道・胃・十二指腸を指します。これらの場所に出来る病気（炎症・潰瘍・ポリープ・がん・食道静脈瘤など）を見つけ、適切な治療方法を考えるために行います。

### (方法)

胃の中を見やすくする水薬を飲んでから、のどをゼリーかスプレーの薬で麻酔します。希望により、楽に検査が受けられるよう鎮静剤の注射をして少し眠くなった状態にします。

内視鏡（うどんより少し太い程度）を口から挿入し、上部消化管をまんべんなく観察します。必要ならば小さい組織を採取して、顕微鏡検査で良性か悪性かを判断します（病理組織検査）。特に痛みはありません。

### (検査前日および当日の注意事項)

前日は夜9時までに食事を済ませて、以降はお水かお茶、スポーツ飲料のみを飲んでください。当日は朝コップ一杯の水だけとし、朝7時までに飲んでください。降圧薬、抗不整脈薬などの心臓の薬、精神科の薬、喘息の薬以外は飲まないでください。また、内服している薬の一覧表・お薬手帳か、現物をご持参ください。

鎮静剤をご希望の方は、別紙（検査・処置に伴う鎮静剤についての説明と同意書）をご参照ください。

### (検査後の注意事項)

喉の麻酔が切れたら、水分や軽食をとってもかまいません。組織検査を受けられた方は食事開始時間について検査後に説明いたします。基本的に2時間くらいあけてください。当日の飲酒や喫煙はご遠慮ください。

### (偶発症について)

喉の麻酔によるショック、内視鏡操作によって起こる出血や穿孔などがあります。日本消化器内視鏡学会が調査した全国集計（2000年）によるとその頻度は0.007%、死亡率は0.00045%でした。万が一、偶発症が発生したときは、保険診療で外科的処置を含めた最善の処置をいたします。

# 検査・処置に伴う鎮静剤（麻酔の注射）についての説明書および同意書

検査・処置を行う際に不安や不快感、苦痛を少なくする目的で、ご希望される方には鎮静剤の投与（主にベンゾジアゼピン系などの注射薬）を行っております。効果は個人差があり、薬が効いている間、頭がぼーっとし、眠ってしまうこともあります。時間がたってから眠気がでたり、判断力が低下することがあります。このため、当日の自動車・自転車の運転を禁止させていただいております。自動車・自転車で来院された場合は、鎮静剤を使用しての検査が出来なくなります。あらかじめご了承ください。

また、ご年齢・併存疾患等のため、鎮静剤の使用が出来ないと担当医が判断した場合は、ご希望があっても鎮静剤の投与は行えません。

＊当院では医師の鎮静剤使用に関する研修を実施し、研修を終了した医師のもとで使用しています。

（鎮静剤使用により起こりうる副作用とその対策）

- （１）呼吸抑制：呼吸する力が落ちることがあります。また舌が空気の通り道をふさいでしまい、呼吸状態が悪くなる場合があります。この場合は酸素投与を行ったり、空気の通り道を確保する器具をのどに入れたり、一時的に人工呼吸を行ったりすることがあります。早期に対応を行えるように、検査中は血液中の酸素飽和度を測定するモニターをつけていただくようにしております。
- （２）不整脈・血圧の低下・徐脈（脈が遅くなること）・心停止など：酸素飽和度のモニターで脈の様子を見るようにしています。異常が認められた場合には、必要な対応を行います。場合によっては検査を中止することがあります。
- （３）めまい・ふらつき・頭痛・興奮（脱抑制）・震え・健忘（投与前後のことを忘れてしまうこと）・悪夢、等の精神神経症状。
- （４）過敏症（じんま疹やかゆみの出現、アナフィラキシーショック等）
- （５）悪性症候群（発熱と筋肉の強直がみられる稀な病気です。入院し、専用の治療薬を使用します。）
- （６）誤嚥性肺炎：気管に入った異物を除去する力が低くなって肺炎になることがあります。
- （７）まれに血管に対する刺激により、検査後 1 週間くらい（時に 1 ヶ月くらい）、注射の跡が堅くなった、紫色になったりすることがありますが、必ず元に戻りますのでご安心ください。

上記のような副作用が患者様の状態や検査などの影響により起きることがあります。なお、偶発症・副作用に対する治療は保険診療で行い、費用の負担が発生いたします。

（鎮静剤使用後の対応）

鎮静剤を使用した場合には終了後、眠気が残ったり、足下がふらついたりすることがあります。鎮静剤の効果が切れるまで、十分な時間、休憩してからお帰りいただきます。高齢者の方はご家族が付き添ってくださいますようお願いいたします。

## <上部消化管内視鏡検査同意書>

今回の検査内容について、説明を十分に理解し、必要であると判断いたしましたので、大森赤十字病院での実施に同意いたします。

署名欄

年 月 日

ご本人様 氏名 \_\_\_\_\_ 印

住所 〒 \_\_\_\_\_

ご家族様 氏名 \_\_\_\_\_ 印

住所 〒 \_\_\_\_\_

## <鎮静剤の使用同意書>

鎮静剤の使用を（ 希望する ・ 希望しない ）

今回の鎮静剤について、説明を理解し、必要であると判断しましたので鎮静剤の使用に同意いたします。

ご本人様 氏名 \_\_\_\_\_ 印

住所 〒 \_\_\_\_\_

ご家族様 氏名 \_\_\_\_\_ 印

住所 〒 \_\_\_\_\_

## ○抗血栓薬についての確認のお願い

今回お受けいただく内視鏡検査中にポリープ、潰瘍、腫瘍などの病気が発見されることがあります。その場合には、その病気が良性か悪性かなどを顕微鏡で調べるために組織の一部を採取すること（生検と言います）があります。生検は通常では止血処置が必要となるほど出血することは比較的稀ですが（内視鏡学会の報告で0.002%とされています）、血液を固まりにくくする薬（抗血栓薬）を内服している場合には生検後に出血をする可能性が高まります。その一方で近年の報告では検査前に抗血栓薬を中止することで予防・治療していた血栓塞栓症が発生するリスクが高まる可能性があると言われています。そのため当院の人間ドックでは抗血栓薬を内服されている方につきましては、基本的には休薬をしないままで内視鏡検査をお受けいただき、もし検査中に生検が必要な病気が発見された場合にはその日は原則的に病気の観察のみとしております。後日、消化器内科を受診していただき生検の必要性等を含め十分にご説明させていただきます、精密検査を受けていただきます。

なお、全ての内視鏡検査および内視鏡処置については、出血する可能性があり、自然に止血しない際には止血術が必要になる場合があること、また、その処置により処置費用が必要になることをご理解ください。

別紙の抗血栓薬の一覧表をご覧ください、確認されましたらご署名をお願いいたします。  
抗血栓薬(血液をさらさらにする薬)の内服について

- 内服している（薬品名 \_\_\_\_\_）
- 内服していない
- わからない

署名欄 \_\_\_\_\_ 年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_

## ○糖尿病薬についての確認のお願い

検査のために朝食を摂取せずに糖尿病の投薬をすると、低血糖を生じて危険な状態になる可能性があります。内視鏡検査を受けられる方は、検査当日朝の糖尿病薬の内服、インスリン注射は中止してください。ただし、例外もありますので別紙をご参照ください。

糖尿病の薬について確認が出来ましたらご署名をお願いいたします。

受診者の皆様の安全を期すためご協力をお願いいたします。

糖尿病の薬                      ある                      ない

氏名 \_\_\_\_\_